

高齢者保健福祉活動評価指標

目的: 高齢者が元気で暮らし、何らかの支援が必要になっても安心して暮らせる

1: できている、2: ややできている、3: どちらともいえない、4: ややできていない、5: できていない
 前年度と比べて 1: 改善した、2: 現状維持、3: 後退した

評価枠組	平成26年度版評価項目	評価	改善状況	改善内容・今後の課題	評価マニュアル(評価の考え方・視点) 保健師が直接関与していない業務は、組織の取り組み状況について評価する
構造・活動の基盤 (4)	1 保健師の他に高齢者保健福祉活動を実践する専門職が配置されている				高齢者保健福祉活動を実践する専門職の配置状況を評価 他の専門職とは、リハビリ職、社会福祉士、管理栄養士、歯科衛生士等を指す。 保健師が他の専門職(常勤の有無は問わない)と協働して高齢者保健福祉活動を行える体制になっているか。 追加配置が必要な専門職はいるか。
	2 高齢者保健福祉活動を担当する保健師が、他の部署の保健師と連携を図る体制がある				高齢者保健福祉の保健師が他の部署(保健部署等)の保健師と連携を図ることが組織として認められているか。 保健部署等の保健師とどのような連携が図られているか。 組織を超えた保健師の連携内容や頻度をさらに強化する必要があるか。 他の部署の保健師との連携について、個別に取り組んでいることがあるか。
	3 地域包括支援センターを委託している場合、地域包括支援センターの活動を評価している				直営の場合は評価する必要はない。 組織として、委託先の地域包括支援センターの活動の現状と課題を整理しているか。 地域包括支援センターの質の向上のために実施していることはあるか。 地域包括支援センターが複数ある場合、地域包括支援センターによる対応の差をなくすため実施していることはあるか。
	4 保健師が地域包括ケアの能力を高めるための研修等に参加している				保健師が高齢者保健福祉活動に必要な専門知識や対人援助スキルを習得できる教育体制(人材育成)があるか。 地域包括ケアの能力を高めるための研修に参加できているか。 異動直後や経験の浅い保健師が日々の活動について相談できる体制があるか。
プロセス (18)	高齢者保健福祉活動に関連する情報の収集と整理				
	5 地域の高齢者の実態や社会資源の整備状況等を把握している				人口動態等の統計、介護保険認定状況、サービス利用状況等を把握しているか。 地域包括支援センターの地域毎の特徴や課題について検討しているか。 経年的な評価や他の自治体との比較など実施しているか。
	6 高齢者の健康状態や意識等について把握している				特定健診や基本チェックリストの結果等から、高齢者の健康状態を分析しているか。 日常生活圏域調査結果を把握しているか。 高齢者の介護予防に関する意識(不安や心配事など)を調査しているか。 過去と比べての評価を行っているか。
	高齢者保健福祉活動の情報分析・地域診断・目標設定				
	7 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の方針・目的に沿って事業展開している				高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画で示している方針・目的に沿って業務計画をたてているか。 高齢者保健福祉計画で目指していることを活動に反映しているか。 保健事業の実績等が計画の策定・進行管理に活用されているか。
8 要支援者の訪問・通所サービスの介護予防・日常生活支援総合事業への移行や移行後の進行管理を計画的に実施している				(移行前)要支援者のサービス利用状況、要支援者のサービスの担い手の状況について把握しているか。 総合事業への移行にむけて、タイムスケジュールをたてて取り組んでいるか。 (移行後)新たなサービスや活動の立ち上げの必要性について検討しているか。 事業移行後の進行管理を行っているか。	

高齢者保健福祉活動評価指標

目的: 高齢者が元気で暮らし、何らかの支援が必要になっても安心して暮らせる

1: できている、2: ややできている、3: どちらともいえない、4: ややできていない、5: できていない
 前年度と比べて 1: 改善した、2: 現状維持、3: 後退した

評価 枠組	平成26年度版評価項目	評価	改善 状況	改善内容・今後の課題	評価マニュアル(評価の考え方・視点) 保健師が直接関与していない業務は、組織の取り組み状況について評価する
プロセス (18)	9	より多くの高齢者へ介護予防の普及啓発ができるよう、計画的に実施している			介護予防普及啓発事業について、地区把握等の現状と課題の分析に基づき、目標を立てて計画的にPDCAサイクルを回して実施しているか。 これまでの介護予防事業の効果や今後どのように継続していくかなど、評価しているか。 総合事業のなかで、新たに実施すべき事業について検討しているか。
	10	認知症施策全般について、現状を分析し、目標を明確にして計画的に取り組んでいる			認知症地域支援推進員の配置し、認知症の普及啓発(認知症サポーターの養成)、認知症ケアパスの作成・普及、認知症初期集中支援チーム、家族支援(認知症カフェ)等の取り組みの現状と課題について分析し、目標を明確にして計画的に取り組んでいるか。
	高齢者保健福祉活動における住民への働きかけ・住民活動の活性化				
	11	介護予防に繋がる住民主体の活動の活性化に向けて、介護予防のサポーター養成・育成・自主グループの育成を計画的に行っている			地域介護予防活動支援事業(介護予防のサポーターやボランティアの養成・支援、住民主体の活動の活性化に向けての支援)について、地区把握等による現状と課題の分析に基づき、目標を立てて計画的にPDCAサイクルを回して実施しているか。 介護予防普及啓発事業等の事業との関連性を認識して事業展開をしているか。
	12	総合事業における多様なサービスを幅広く展開するため、NPO等の団体や住民主体のサービスの開発を進めている。			「生活支援コーディネーター」は、「協議体」の立ち上げ・運営において、地域のニーズと資源の状況の見える化、問題提起を実施しているか。見守りやサロンなどの担い手となる人材発掘・育成の現状と課題について検討しているか。 地縁組織等多様な主体への協力依頼などの働きかけや、関係者と目指す地域の姿・方針の共有、意識の統一を行っているか。 生活支援の担い手の養成やサービスの開発を行っているか。ニーズとサービスのマッチングを行っているか。
	13	介護者(家族)を支援する対策を実施している			介護者を支援する対策(介護相談、介護者のつどい、介護者セミナー、認知症の家族会への支援等)を介護支援専門員等の関係者と連携して実施しているか。
	高齢者保健福祉活動における関係者との連携				
	14	地域ケア会議を通じて地域課題を共有し、課題解決に向け、関係者のネットワーク構築や資源開発、施策化されている			地域ケア会議を通じて地域の課題分析や、家族介護問題、住宅問題、低所得者対策等の現状と課題について検討しているか。 地域ケア会議の実施状況を評価し、課題解決に向けて関係者と協議し、支援の方向性について共有しているか。 生活困窮者自立相談支援員や精神・難病の担当等、関係者とのネットワークの構築にむけて連携を図っているか。 高齢者支援に必要な資源開発、施策化されているか。
	15	通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へ、リハビリテーション専門職等の関与がある			地域リハビリテーション活動支援事業の実施方法について計画を立てて実施しているか。リハビリ専門職がない場合 地域リハビリテーション活動支援事業の実施に向け、リハビリ関係者と連携をとり、生活支援の現状と課題を分析し、今後の方向性について考え方を共有しているか。 リハビリ関係者が通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等で支援する機会をつくっているか。

高齢者保健福祉活動評価指標

目的: 高齢者が元気で暮らし、何らかの支援が必要になっても安心して暮らせる

1: できている、2: ややできている、3: どちらともいえない、4: ややできていない、5: できていない
 前年度と比べて 1: 改善した、2: 現状維持、3: 後退した

評価 枠組	平成26年度版評価項目	評価	改善 状況	改善内容・今後の課題	評価マニュアル(評価の考え方・視点) 保健師が直接関与していない業務は、組織の取り組み状況について評価する
プロセス (18)	16	地域包括ケアシステムの構築に向けて、在宅医療・介護の連携強化にむけて取り組んでいる			在宅医療・介護連携推進事業で示されている項目について、協議会等で医療・介護の関係者と連携をとりながら計画的に進めているか。医療機関と介護関係者の連携の橋渡し役を担っているか。
	17	個別ケースは緊急性を判断し、必要時、関係部署、関係機関、地域内の協力者等と連携して支援できる			関係部署: 生活保護、障がい、権利擁護、消費者被害等、関係機関: 医療機関、介護保険事業所・施設、保健所、警察等 地域内の協力者: 民生委員、自治会、近隣等 個別ケースについて、その都度緊急性を判断し対応しているか。 介護保険事業所などの関係者、保健部署、生活保護、障がい者支援、権利擁護、消費者被害等の部署、自治会や民生委員、地域内の協力者等と適切な連携がとれているか。 緊急時の対応について、職員・関係者の役割や連携方法の現状と課題について検討しているか。 処遇困難事例への対応について、職員・関係者の役割や連携方法の現状と課題について検討しているか。
	18	認知症の高齢者の登録や行方不明時の捜索、保護ができるよう、認知症の高齢者を支援するシステムがある			認知症の高齢者の支援する関係者とのネットワークの構築に向けて関係者と連携を図っているか。 認知症の高齢者対策の現状と課題、支援の目標について関係者と共有する機会をつくっているか。
	19	高齢者の災害時の対策について、介護保険事業所・施設、医療機関、保健所、地域の関係者等と協議・確認している			高齢者の災害時対策の現状と課題について検討しているか。 高齢者の災害時の対策について介護保険事業所・施設、医療機関、保健所、地域の関係者と協議しているか。 高齢者の災害時の対策についての取り組みを実施しているか。
	高齢者保健福祉活動のモニタリング、評価				
	20	介護予防・生活支援総合事業(移行前は介護予防事業)の評価を定期的に行っている			介護予防・生活支援総合事業(移行前は介護予防事業)のについて、地区把握等による現状と課題の分析に基づき、目標を立てて計画的にPDCAサイクルを回して実施しているか。事業評価(事業の進め方、実施状況等)を定期的に行っているか。 経年的な評価は行っているか。 評価を行う際、他の専門職、関係者とともに行っているか。
	高齢者保健福祉活動に携わる人材育成				
	21	関係者の力量向上に向けて、処遇困難事例への支援方法等の検討をしている			地域ケア会議等で、地域内の処遇困難事例の実態(件数、特徴、対応状況等)を把握し、適切な支援内容について検討しているか。 処遇困難事例の支援方法について、関係者と共有する機会をもっているか。
	22	高齢者支援を担当する関係者の資質の向上に向けて、学ぶ機会がある			高齢者支援を担当する関係者(保健師、包括、ケアマネ等)が学ぶ機会(研修、事例検討会等)があるか。

高齢者保健福祉活動評価指標

目的: 高齢者が元気で暮らし、何らかの支援が必要になっても安心して暮らせる

1: できている、2: ややできている、3: どちらともいえない、4: ややできていない、5: できていない
 前年度と比べて 1: 改善した、2: 現状維持、3: 後退した

評価 枠組	平成26年度版評価項目		評価	改善 状況	改善内容・今後の課題	評価マニュアル(評価の考え方・視点) 保健師が直接関与していない業務は、組織の取り組み状況について評価する
結果 1 (2)	23	一般介護予防事業の参加者数が増えている				一般介護予防事業の参加者数は増えているか。
	24	高齢者に関する相談支援窓口や高齢者の生活に役立つ情報を地域住民に提供する機会が増えている				高齢者の生活に役立つ情報(公的情報B関連施策、民間情報、医療情報)を整理しているか 高齢者に関する相談支援窓口について、地域住民や関係機関へ周知する機会は増えているか。 地域住民へのや関係者への周知方法についての現状と課題について検討しているか。 地域包括支援センターが住民に周知されているか。
結果 2 (2)	25	介護予防や高齢者支援に繋がる住民主体の活動が増えている				介護予防に繋がる住民主体の活動の現状と課題について検討しているか。 地域で介護予防や高齢者支援に繋がる住民主体の活動が増えているか。
	26	地域包括ケアの構築に向けて、医療・介護等の関係者の連携が強化されている				高齢者支援における医療・介護の関係者の連携をとる機会が増えているか。 高齢者支援における医療・介護の関係者と、連携における現状と課題についての検討をしているか。
結果 3 (2)	27	介護認定率(特に前期高齢者)が下がる				介護認定率(介護認定者/第一号被保険者)、特に前期高齢者の介護認定率は下がっているか。 介護認定率における現状と課題について評価しているか。
	28	健康寿命が延伸する				健康寿命は延伸しているか。(都道府県、国保連等で市町村ごとに健康寿命を出しているところがあります) 健康寿命における現状と課題について検討しているか。